観光の視点で見た都市間比較と観光振興策に関する研究
～福岡市と名古屋市を対象として～

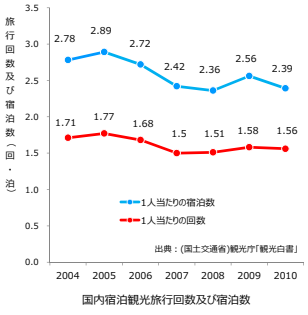
福岡大学　辰巳　浩，堤 香代子，佐伯 駿介

研究の背景と目的

2006年12月に「観光立国推進基本法」が成立し、2007年6月の「観光立国推進基本計画」の閣議決定等、「観光立国の実現」が今後の日本の経済社会の発展の課題となっている。しかし、日本国内の宿泊観光旅行の回数及び宿泊者数は2005年をピークに年々減少している。観光立国を実現するためには、地域ごとの観光資源を生かした取り組みが重要であると思われる。

福岡市は九州最大の都市で、空港や駅からのアクセスが非常によく、商業の町として大きく発展している。また中国からの大型クルーズ船が寄港するなどアジア各地から多くの観光客が訪れる都市である。しかしながら、現在、訪れた観光客は福岡市には留まらず、別の観光地へと流れる傾向にある。そこで、福岡市内には商業施設が多くある中、観光についての施設には発展の余地があると考えられ、観光施設の整備を行うことで、多くの観光客の足を福岡市に留めることは、福岡市のさらなる発展につながると考えられる。

観光施設を整備するにあたって、福岡市の現状を把握し、問題点・改善点を抽出することが重要である。そのために、福岡市と他の都市を観光の視点で比較することで現状を把握し、今後の課題を見つけることが本研究の目的である。



国内宿泊観光旅行回数及び宿泊数

福岡市・名古屋市の概要

福岡市の風景(出典：福岡市市役所)

名古屋市の風景(出典：名古屋市HP)

福岡市は、福岡県の県庁所在地であり、政令指定都市である。九州地方において最大の人口規模で、福岡都市圏は都市雇用圏として全国第5位の人口を有する都市である。

主要地域拠点地空港である福岡空港や特定重要港湾に指定されている博多湾をはじめ、天神や博多駅を中心に県外の各地と結びついている九州新幹線やJR各線、市営地下鉄、九州縦貫自動車道や都市高速道路などの道路網が整備されアクセスが非常によく、多くの人が訪れる。

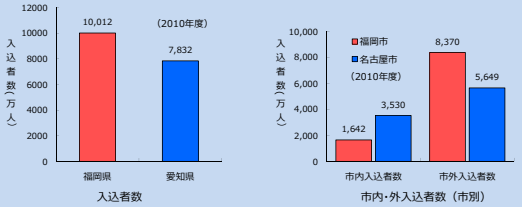
歴史、祭り、グルメ等の観光資源を楽しめ、特に商業はキャナルシティ博多など施設が豊富に揃っている。常設される屋台の数は日本一で、天神・中洲・博多・長浜などで夜間に店が出て、屋台目当ての観光客も多い。

名古屋市は愛知県の県庁所在地であり、政令指定都市で16区から構成される都市である。横浜市・大阪市に次ぐ全国第3位の人口を有し、東京と京都の間に位置することから、中京とも呼ばれ、三大都市圏の一つである中京圏の中枢都市となっている。名駅と栄が、広域集客可能な繁華街となっており、市の中心部となる栄と名駅一帯は地下街が発達している。それに伴い、地下鉄網も充実している。

市章は、現在の名古屋市を拠点に尾張を統一して新藩、徳川御三家筆頭格の尾張徳川家の合印に由来する。歴史的にも国指定の重要記念物などが多く存在し、数多くの観光客が訪れている。

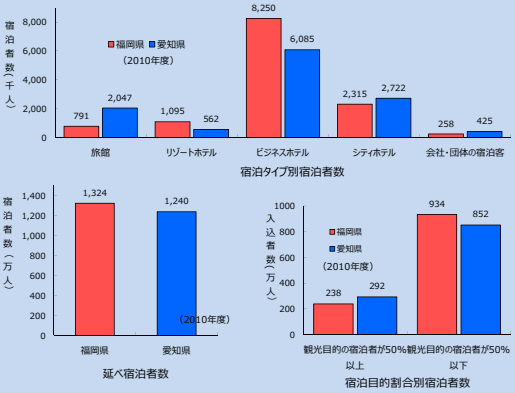
観光統計データの比較・分析

福岡市と名古屋市の観光の現状を比較するために、入込者数、延べ宿泊者数、宿泊目的割合別宿泊者数、宿泊客・日帰り客の入込者数、宿泊施設タイプ別宿泊者数で比較・検討する。



入込者数を県別で比較すると福岡県が約10,012万人、愛知県が約7,832万人で、福岡県が愛知県より約1.3倍多い。

市内・外入込者数では福岡市は約１,642万人、名古屋市は約3,530万人で福岡市の市内入込者数は少ない。この要因としては、福岡県には福岡市の他に北九州市、久留米市などの大きな都市が存在するので、観光客が分散し、市内入込者数が少ないと考えられる。



名古屋市には宿泊関連データが存在しなかったため、県ベースの統計データをもとに比較を行う。

福岡県・愛知県ともにビジネスホテルの宿泊者数が多く、愛知県の特色として旅館に宿泊する宿泊者数が多いことである。愛知県の歴史的文化財が関係していると考えられる。

延べ宿泊者数は、福岡県1,324万人、愛知県1,240万人と福岡県が100万人も多い。愛知県は東京などの主要都市圏に近く、旅行やビジネスなどでも日帰りで帰ることが可能である。一方、福岡県の場合は主要都市圏から遠く、日帰りは難しい。このような要因が福岡県と愛知県の差と考えられる。

観光目的の宿泊が50%以上か否かでの宿泊者数では、両県ともにビジネスマンの出張などによる宿泊が多い。

観光資源の比較分析　旅行ガイドブック「楽楽」を用いた福岡市と広島市の観光資源の評価の比較

1. 主要観光施設

「楽楽」に記載の主要観光施設とその評価

地域	施設名所	施設の概要	モデルルート	楽楽で取り上げられている	観光施設の評価
福岡市	櫛田神社	「お櫛田さん」の愛称で親しまれる博多の総鎮守	○	△	○
	「博多町屋 ふるさと館	博多の暮らしを紹介する施設	○	△	○
	キャナルシティ博方	店や映画館、レストランがありホテルも隣接する複合施設	○	○	◎
	福岡タワー	福岡市を一望する事の出来る海浜タワー	○	△	○
	大濠公園	福岡市を代表する約40万m^2の敷地を有する公園	×	○	○
	屋台	福岡市中洲周辺に多く存在する。福岡市の夜のシンボル	○	○	◎
	ホークスタウン	ドームにホテルなどの大型施設が揃う複合施設	×	○	○
	マリノアシティ福岡市	九州最大級のアウトレットモール	○	○	◎
	マリンワールド海ノ中道	多くの海洋生物にイルカショーと見所の多い水族館	○	○	○
	福岡城跡	国の重要文化財である南九多門がある。	×	△	△
名古屋市	名古屋城	国の重要文化財の金のシャチホコがある。	○	○	◎
	名古屋駅	名古屋市最大級の駅。ランドマークとなっている。	○	△	○
	オアシス21	ショップやイベントバスターミナルとしての役割をもつ複合施設	×	○	◎
	熱田神宮	三種の神器の草薙の剣がある。	○	○	◎
	大須観音	日本三大観音の一つ観音零場がある。	○	○	◎
	ラシック	ファッションからインテリア、グルメなど多く存在している。	×	△	○
	サンシャイン栄	スカイボートという高さ52mの観覧車があり都内を一望できる。	×	△	○
	ミッドランドスクエア	名古屋駅周辺でもトップクラスの高さを誇る複合ビル。中部地区一の高さを誇る展望スッポトのスカイポロナームからの絶景が楽しめる。	○	○	◎
	愛・地球博記念公園	愛知万博開催後、市民の憩いの場として親しまれる緑豊かな公園	×	△	○
	名古屋テレビ塔	日本初の電波鉄塔として昭和29年に開業した。	○	○	○

評価方法
◎：「楽楽」で観光モデルルートで大きく取り上げられているもの　△：それ以外の施設
○：「楽楽」でモデルルートまたは大きく取り上げられているもの　×：紹介されていないもの

両市の類似点は、複合施設や商業施設が多く取り上げられていることであり、相違点は、名古屋市では歴史的文化財、福岡市は食にみられる。

名古屋市には歴史的に有名な文化人が多く存在し、そのゆかりの地が多く取り上げられている。一方、福岡市では他都市では珍しい屋台を取り上げ、特集まで組まれている。

2. 福岡市・名古屋市の固有の観光施設

①福岡市の固有の観光資源～屋台～

福岡市において屋台は夜のシンボルであり、観光資源としても人気がある。また、福岡市における屋台の経済波及効果は年間約50億を越える。しかし、近年「衛生面での問題」、「通行の妨げ」、「騒音問題」、「道路の汚れ」など様々な問題が生じており、屋台の存続が危ぶまれ、将来的には屋台がなくなる可能性も示唆されている。 福岡市にとって屋台は観光資源として大切なものなので対策を図っていくことが必要である。

屋台の風景(出典：福岡市HP)

②名古屋市の固有の観光資源～名古屋城～

名古屋城は、名古屋市の象徴となる観光資源である。「姫路城」、「熊本城」とならび日本三名城である。天守閣は昭和初期まで昔からの状態で現存していたが、1945年の名古屋大空襲により崩落した。しかし、戦後間もなく復元された。

また、2013年1月4日に名古屋市は、2013年度から名古屋城の天守閣を現在の鉄筋コンクリート製から本来の木造に建て直す復元事業に着手すると発表した。

名古屋城(出典：名古屋市HP)

3. 福岡市・名古屋市の祭りの比較分析

福岡市は「博多祇園山笠」、「博多どんたく」が全国的に有名なお祭りであり、「博多祇園山笠」は約760余年の古い歴史を持っている。「博多どんたく祭り」は一説によると1595年に博多の町人たちが年賀の祝いとして開いたのが始まりとされている。

名古屋市は「名古屋まつり」が1955年から開かれている。「名古屋まつり」は古くはないが、名古屋市の祭りとして全国的に知名度が高い。

どちらの市のお祭りも、観光動員客数200万人を超える祭りである。このことより、福岡市と名古屋市ではお祭りに関しては、優位性はないといえる

4. 類似した観光施設の分析

福岡市の新たな観光資源として名古屋市の観光資源で大きく取り上げられており福岡市で活かせるものはないかの点で二つピックアップした。

一つ目に名古屋市の名古屋城に対し福岡市の福岡城跡、二つ目に名古屋市の名古屋駅に対し福岡市の博多駅を取り上げた。

福岡市・名古屋市における類似観光施設は、福岡市の「キャナルシティ博多」に対して名古屋市の「オアシス21」、福岡市の「福岡タワー」に対し名古屋市の「名古屋テレビ塔」などがある。

5.近郊の観光スポット

「楽楽」に記載の近郊の観光スポットとその評価

地域	観光スポット	モデルルート	ページ数	施設数
福岡市	門司港・下関	○	8	24
	太宰府	○	9	25
	小倉	×	4	18
	秋月	×	3	15
	柳川	○	6	27
	吉野ヶ里	×	2	-
	唐津	○	6	21
	有田・伊万里	○	2	11
	壱岐	×	3	17
名古屋市	常滑	○	4	15
	半田	○	10	15
	日間賀島・篠島	×	2	8
	岡崎	○	4	20
	蒲郡	○	2	7
	三谷・西浦温泉	○	2	9
	吉良	×	2	7
	豊橋	○	3	7
	豊川	×	3	5
	渥美半島・伊良湖	○	4	12
	足助・香嵐渓	○	4	17
	風来寺・湯谷温泉	×	4	13

評価方法
◎：「楽楽」で観光モデルルートで大きく取り上げられているもの　△：それ以外の施設
○：「楽楽」でモデルルートまたは大きく取り上げられているもの　×：紹介されていないもの

福岡近郊と名古屋近郊を比較すると、ガイドブック「楽楽」で掲載されているエリア数は福岡市は9エリア、名古屋市は12エリアである。掲載内容は、福岡市、名古屋市ともに郷土料理、伝統、歴史的なゆかりがある場所の紹介である。よって、ガイドブック「楽楽」上では、近郊エリアの重点の置き方に優位性はないといえる。

6. 福岡市の新たな観光資源

①名古屋城と福岡城について

名古屋城は、1609年にかの有名な徳川家康が築造した。現在でも当時のものではないが天守閣が存在しており象徴となる[金の鯱]がある。

それに対して福岡城跡は、1601年に黒田長政が築造した。徳川家康に比べて知名度も低く、天守閣も存在しない。現在、天守閣復元案が挙がっている。

福岡城跡(出典：福岡市HP)

名古屋城(出典：名古屋市HP)

②名古屋駅と博多駅 について

名古屋駅と博多駅の類似点として、両県を代表する国内最大級のターミナル駅であり、JR各線、新幹線など様々な路線が停車する。

それにともない両駅共に駅ビルが存在する。名古屋駅では「JRセントラルタワーズ」で世界一売り場面積が広い駅ビルである。対して、博多駅は「JR博多シティ」で九州新幹線全線開通にあわせて開業した駅ビルである。両駅ビルともに国内最大級の駅ビルである。

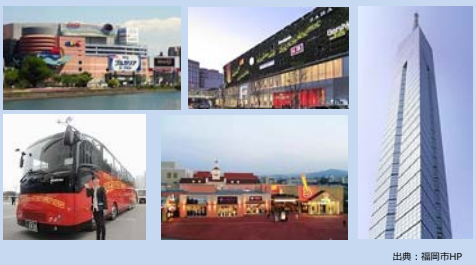
JRセントラルタワーズ(出典：名古屋市HP)

JR博多シティ(出典：福岡市HP)

7. 福岡市の今後の課題

今後の課題

- ●福岡市の福岡城跡などの文化・歴史についてPRを行う。
- ●屋台存続の為の環境整備を行う。
- ●九州新幹線全線開通にともない新たな観光資源の「JR博多シティ」を観光の始点として、福岡市の様々な観光地に観光客を誘致する。



出典：福岡市HP

福岡大学工学部社会デザイン工学科 交通・都市システム研究室　福岡市城南区七隈8-19-1 TEL：092-871-6631(内線6483)